

センター長就任のご挨拶

宇都宮大学教育学部附属教育実践総合センター
センター長 上田 高嘉

今年度から苦米地義郎教授に代わりましてセンター長を務めることになりました。私に務まるものか不安でいっぱいではありますが、お引き受けした以上はセンターの役割を問いつけ、学内外の教育機関との連携を図りながら、微力を尽くす所存であります。

本センターは発足依頼、1976年の教育工学センター及び1985年の教育実践研究指導センターへの改組を経て、2000年の改組により現在の教育実践総合センターに至っております。本センターは徐々にではありますが、着実にその組織や内容を充実させており、ひとえに教育学部の教職員をはじめ、栃木県教育委員会並びに宇都宮市教育委員会等の皆様のご理解、ご協力・ご支援の賜と感謝いたしております。

本センターは、教育工学部門、教育臨床部門、地域連携部門（スクールサポートセンター）及び教育実践部門の4部門から構成されております。

教育工学部門は、教育工学・情報教育研究分野、教育実践・教科教育研究分野及び学校情報化推進支援分野に分かれておりますが、いずれの分野においてもICT（Information & Communication Technology）による学習効果の向上をめざす研究や実践活動を行っております。

教育臨床部門は、生徒指導研究分野及び臨床心理研究分野に分かれておりますが、いずれの分野においても子どもたちの健やかな成長にアプローチする研究に取り組んでおります。

地域連携部門は、「学校等支援ボランティア」等の事業を行うなど、教育学部と県内の学校をつないで共に元気になるようとする企画等の手伝いをしております。

教育実践部門は、2010年度に新たに開設された部門ですが、教員として必要な資質の出口保証を行うべく教育実践に関する役割を担っております。

本センターでは紀要等の出版物を発行すると共に、ホームページ（<http://web1.edu.utsunomiya-u.ac.jp/>）を開設しております。本センターが主催する活動案内や催事案内のほかに、これまでの研究成果が掲載されております。また本学部 e-Learning の入り口として多くの方々にご利用いただければと願っております。お気軽にこのページにアクセスし、役立ていただければ幸いです。

ICTの発展には目覚ましいものがあります。学校現場では、目まぐるしく発展を続けるICTを活用した効果的な学習への適切な対応が求められ、また「不登校」「いじめ」「教師のストレス」などの子どもや教師の心理的問題等も抱えております。教師は自身の確かな考えを持ちながら自信を持って教壇に立ち、生徒指導、学級経営等に当たりたいと望んでおり、学生は同様に自信を持って教職を目指したいと思っており、子どもたちは教師への信頼の上での学習を願っていることと思います。教育学部は教師、学生が望む支援に応える使命を持ち、その一端を担うセンターとしては、附属学校園の幼・小・中・特別支援学校並びに栃木県教育委員会、宇都宮市教育委員会その他の教育機関との連携を図りながら、センターに所属する教職員一同力を合わせて諸問題に真摯に向き合う所存であります。人づくりに多少なりとも貢献できればと思っておりますので、皆様のなご一層のご理解とご協力・ご支援をよろしくお願いいたします。